

## メディア・コンテンツを活用した 効果的な医療安全教育に関する実践的研究

### 【代表者】

山口悦子 大阪市立大学 医学研究科 医療安全管理学 准教授

### 【共同研究者】

丁子かおる 和歌山大学 教育学部 准教授

掛屋弘 大阪市立大学 医学研究科 教授

金子幸弘 大阪市立大学 医学研究科 教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

海外では、芸術の手法を教育に応用するアーツ・ベースド・ラーニング（ABL）は、医学教育や職員教育にも取り入れられている。ABL は、知識や技術を伝えるだけでなく、対象者の感情や信条に訴えかけるため、学習効果が高く、学習者の行動変容を促すといわれる。医療分野の ABL には、詩、物語、劇などが多いが、メディア・アートを応用した実践報告や研究は少ない。日本では ABL 自体を医療に応用する研究報告が少ないうえ、メディア・アートの応用に関する研究はほとんどない。一方で研究代表者等は、これまでに複数の施設と協働して、医療分野の ABL の効果に関する研究を行ってきた。中でもアニメーションを活用した教育プログラムは、コミュニケーション力と臨床指標の改善に効果があった。さらに昨年度の本研究では、キャラクターを活用した服薬指導のツールが、看護師と患者の共通理解に有効であることを示した。これらの結果から今年度の本研究では、メディア・アートを応用した患者安全・感染管理の教育コンテンツを新たに制作し、学生・職員・患者などを対象に実施し、その学習効果を評価する。